



## 吉村洋文 × 金村りゅうな

老後2000万円社会で  
どれだけの人が  
幸せになれるのか

**金村** 少し前に、老後の生活には2000万円くらい必要だというレポートが財務省から出されて、波紋を呼びましたね。僕は経営者として従業員を抱えてきた経験から言えば、率直に言ってそんな社会でどれだけの人が幸せになれるのかと絶望に近い感情を抱きました。少なくともうちの会社ではそれだけの給料を全員に出すことは不可能です。

**吉村** そうですね。いま日本の社会はどんどん格差が広がっています。普通に就職して真面目に働いた人が豊かになれる社会は昭和までで、平成の時代以降働く人の実質所得は下がり続けています。一方で資産がより多くの収入を産む構造はどんどん加速しています。税と社会保障が所得の再配分機能を果たせていないので貧富の差は年々拡大するばかりです。

**金村** 原因は明らかで、時代とともに人口構成や社会構造が大きく変わったのに、社会保障制度の考え方がまったくと言っていいほど変わっていないからだと思います。これは日本の政治が機能していない証拠です。今の制度が作られた高度成長期と現在の社会を比較すると、その違いは明らかです。

### 高度成長期の社会

- ・人口増加
- ・中央集権体制
- ・1億総中流社会
- ・公共工事が景気を牽引
- ・終身雇用を前提とした働き方

### 現在の社会

- ・人口減少
- ・地方分権
- ・資産格差の拡大
- ・民間主導の経済活動
- ・雇用の流動化と非正規化

**吉村** 今後人口は加速度的に

減少していくのに、政府は若い世代が少ない人口で多くの高齢者を支える社会保障のモデルを必死に守ろうとしています。現役世代一人当たりの負担が増えたからじゃなく、高齢者が増えたからじゃなく、世代間で支えるという人口増加時代の考え方を政府が変えようとしていないからです。

**金村** その通りですね。制度は人が幸せに暮らすためのもので、時代に合わなくなっただけのもの、むしろ速やかに変えていくべきだと思います。セーフティネットの考え方も変えていく必要があります。かつては正規雇用が前提で、離職することはいわば事故のような扱いでしたから、

職を失って初めて補償を受ける

という考え方で、雇用保険や生活保護の制度ができました。

### チャレンジを生む セーフティネット

**吉村** 生活保護は本当に問題の多い制度だと思います。第一に、貰う人と貰わない人の不公平感が非常に強い制度だということ、そしてさらに最悪なのが、働いて収入を得るとその分保護費が

減らされるので、働く意欲が湧き辛い制度だという点です。

**金村** 今や転職サイトの広告を見ない日は無いくらい、転職が一般的になった現代で、セーフティネットのあり方も、そういう暮らしをサポートする制度

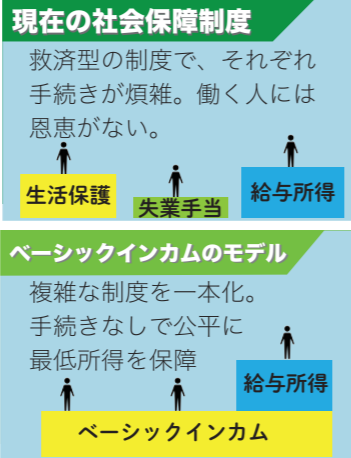
に創り直すべきだと思います。離職

しやすく転職しやすい社会は成長分野への人の流動が起きやすく、社会全体が活性化します。何より、嫌な仕事を生活のために続けざるを得ない人生を送っている人にも、政治の力で新しい人生を選べる環境を用意することができます。

**吉村** 維新のベーシックインカム論はまさにその観点からスタートしたものです。国民全員に最低限度の収入を保障することで、生活の心配をやわらげ、やりたい仕事にチャレンジしやすい環境を作ることができます。これは国民全員が対象ですので非常にフェアな制度です。働いた分はそのまま上乗せされるので労働意欲を削ぐこともありません。維新の会ではこれに必要な財源の計算を既に

行っています。

**金村** 現在の複雑な制度がいかに無駄が多く、不公平な制度かということが明らかになりましたね。



**吉村** 民主党政権時の事業仕分けでは、やめるべき事業を議論し、失敗しました。やめるべきは事業ではなく無駄な仕事です。制度をシンプルにすれば事務処理が減り行政組織をスリムにできます。僕は大阪でこれをやり、実際に財源を生み出してきました。国の改革はまだまだこれからです。